

『千字文』

せんじもん



『千字文』は、中国の梁の時代に、武帝（在位五〇二〜五四九年）が周興嗣（しゅうこうし）に命じて作らせた、漢字習得のための教材です。天文、地理、政治、歴史などの森羅万象について述べた、重複のない千の漢字を四字一句とする二百五十句からなる韻文で構成されています。一句おきに韻をふむという韻文の原則にのっとり、偶数番目の句はすべて押韻しています。

周興嗣はこの『千字文』を一夜で考え、武帝に献上したときには苦心のため髪の毛が真っ白になっていたという伝説が残されています。

ここでは、『千字文』の冒頭部分の、天道（自然の偉大な働き）に関する十句を紹介します。

天地玄黄

天の色は玄、地の色は黄

宇宙洪荒

宇宙は果てしなく、時間は無限である。

日月盈昃

太陽は月とは永遠に運行を続け、

辰宿列張

天には多くの星が秩序をもって並んでいる。

寒來暑往

寒さが来ると暑さが去りゆくように、歳月は正しくめぐり、

秋收冬藏

秋には収穫し、冬には蓄える。

閏餘成歲

うるう月をあてはめて一年を正しく定め、

律呂調陽

律と呂の音階によって、四季の移り変わりをととのえる。

雲騰致雨

雲が天高くのぼり、雨をもたらし、

露結爲霜

夕べに降りた霜は凝固して、夜明けには霜となる。

青字・韻字（韻を踏むために句末に置く字）

